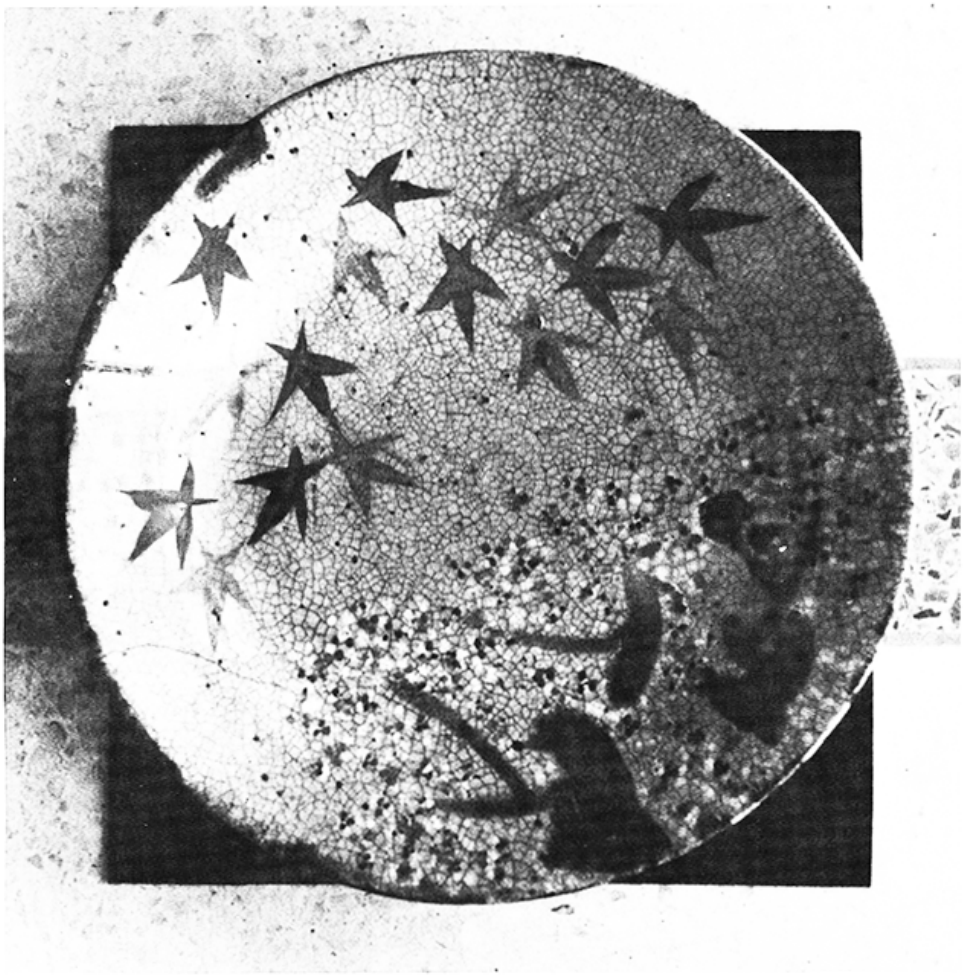
愛知の博物館

1976年　No. 22



愛知県博物館協会

表紙写真　（雲錦中皿）

犬　　山　　焼

犬山焼は　宝暦年間（１７５１～６４）現在の犬山の東４キロの地　旧今井村で登煙し古瀬戸風なものや　灰釉の滋い趣きのものが作られ　残存しているその後　文化７年（１８１０）犬山城の東の丸山に移り　御庭焼と称して茶器類を焼き　京焼の粟田風の陶器をもてがけている　また　天保（１８３０～４４）頃には　犬山城主成瀬家の保護と奨励により　陶画工道平を招いて　赤絵呉須風のものを描かせた俗に犬山乾山といはれる　乾山写しの作に　優品が多く　世評高いものです

こゝに掲載しました　雲錦手の大皿は　犬山焼のなかでも　もっとも犬山焼らしい見事な出来栄えで　青味のある独特な釉調と貫入の調和の良さ　絵付の豪放さは他に比類のないものです　民芸陶の真髄は　こんなところにあるのではないでせうか　もういちど忘れられた地方窯の良さを見直したいものです

解説　所蔵　栗本好章

目　　次

三重県鳥羽、伊勢地方研修会に参加して　　海老沢立志 …… 1

博物館職員倫理綱領について　　小田切松男 …… 2

台湾の博物館を見て来て　　金子　　功 …… 7

建設すすむ『名古屋市博物館』(仮称)　　新海明敏 …… 12
—その経過と施設の内容—

博物館教育の実現のために　　広瀬　　鎮 …… 14
—教材の開発について—

三重県鳥羽、伊勢地方研修会に参加して

海老沢立志

２月２３日、２４日愛知県博物館協会主催の県外研修会に参加し、三重県鳥羽、伊勢地方の博物館施設を見学させていただいた。各館からあつく迎えられ親しくご指導いただけ、お蔭様で有意義な研修会となった。以下各訪問先別に卑見を記しお礼の言葉にかえたい。

２３日、１３時の集合時間より早く鳥羽駅に到着。何はともあれ鳥羽ビジターセンターを見ておこうと駅前に出る。財団法人伊勢志摩国立公園事務所がやっているもので、伊勢志摩国立公園の自然と人文を写真パネルで紹介し、無人のカウンターには案内パンフレットが置かれている。港の桟橋近くで昼食をとりながら、今もらって来た案内地図とあわせて街の周辺を見まわすと、訪問予定のぶらじる丸の巨体、鳥羽水族館が目に入り、また海の博物館も近いことがわかる。大小の島々にかこまれた湾内は、少々風は強いがよく晴れた海が碧く、水中翼船、カーフェリーが伊良湖、蒲郡、西浦、名古屋港を結んで出入りしている。参加者が全員揃ったところで鳥羽駅から徒歩１０分、海の博物館を訪問する。

静かなたたずまい。その上入場券売場には係の人がいない。売店にも人影が無い。

館長（代理）の石原義剛氏に迎えられる。本日月曜日は管理部門が休日のため、毎週無料開放している由。「海に生き、海にくらすひとびとの、歴史や文化を、少しでも多く知ってもらいたい。海と人間の、親しい交わりを、忘れないでいたい」というねがいをもって、海と人間をテーマにしている博物館。その内でも魚と人間とのつながりに関するもの、漁撈関係、漁船から釣針、漁師の生活用具全般にわたり保存状態が良く保たれている。展示方法も「どちらか？」「何故か？」というような問いかけの形式がとられ、さらに深い疑問や結論は観覧者自身に出させるように工夫されている。度会郡南島町奈屋浦で、慶応４年と明治１３年に起った鮪の空前の大漁で、貧しかった村がいっきょに裕福な村に変った物語の資料展示も興味深かった。

観光地鳥羽の中で、街から少し離れてはいるが特に不便な所でもないのに、一般の観光ルートからは離れているらしい。それ故にこのようにきめこまかい展示、格調高い雰囲気が保たれているかと思ったり、逆にせっかくの展示なので観光客の流れを呼び込んででもより多くの人々に見てもらうようにできないかと思ったり、さらに入館料収入を増やして明日への活動の資金に回したらなど下種なことまで考えながら門を出た。

鳥羽港の桟橋にかつての移民船ぶらじる丸がけい留されている。鳥羽ぶらじる丸観光株式会社の営業課長　坂本忠雄氏の案内で見学させていただいた。船と海について展示され興味深く拝見。今見て来たばかりの海の博物館と同じ対象をとり上げながら、展示状況など全く異っていることもまた面白い。筆者にとっては、ブラジル国を紹介するコーナーについて特に興味深く拝見。筆者の博物館明治村には、昨年ブラジル移民の住宅が移築され、その際ブラジル展を行なった。現在も同建物内部の展示を検討中のためことのほか面白く拝見した訳である。その経験からも、非常に展示に力を入れておられることがわかる。

今後はさらに外国航路に就航していた船としてのぶらじる丸自身を展示に加えていくとさらに充実したものとなろう。坂本氏自身以前ぶらじる丸に乗船しておられた由、ご健闘を祈ります。

見学することが多く、予定時刻が遅れ真珠島は断念。鳥羽簡易保険保養センターに宿泊。

翌２４日９時、鳥羽水族館を訪問。飼育研究課長　関戸氏の案内で館内を見学。寺町昭文氏の集めた貝類のコレクションのうち４０００種１０,０００点が展示されているのは圧巻。

私立の博物館で、採算がとれているのは、観光地という地の利もあると思うが、頼もしい。商事部をもうけ営業部門は利潤を追求し、研究部門はまた徹底的に水族館としての役割をはたしていくやり方が功を奏しているらしい。昨年から独自で伊勢湾の調査を行って、社長の中村幸昭氏以下意気高い。

また中村社長は三重県博物館協会の副会長でもある。愛博協は東海地区ということで、東は神奈川県までつながりがありながら、隣県である三重の博物館とは愛博協としてはこれまであまりつながりが無かった。今後はまず懇談会などを手はじめに、いっしょに種々活動して行きましょうと、中村副会長から提案を受けた。

午後は神宮徴古館と農業館を訪問した。矢野憲一学芸員のご案内で見学。両館の建物はともに明治の大建築家片山東熊の作品。

式年遷宮の際に奉献する御装束神宝は、古代から受け継がれた技術史の資料として大変貴重であることを改めて認識した。

神宮農業館の展示資料は大部分明治時代のものであるが、詳細に見ていくと非常に面白い。種々な意味で感銘を受けたのは「深山の夕暮（夏）」という表題のジオラマによる鳥獣生態標本の展示である。わが国の博物館の草分け佐野常民が指導して作らせたジオラマとのこと。館内に展示してある剝製等はほとんど明治３０年代につくられたもので、ほこりもついたりしており展示替えも考えておられるとのことであったが、特にこのジオラマ等は“明治時代の博物館展示を語る標本”として、このまま末永く保存展示しておいていただきたいと思った。

隣りの県でありながら、博物館協会としては遠かった三重県の博物館協会とは、これを契機にお近づきを深めていきたいと思った。

<財団法人博物館明治村学芸員>

博物館職員倫理綱領について

小田切松男

１９２５年の第２０回アメリカ博物館協会年次総会において、博物館職員倫理綱領等を満場一致で可決している。

この問題は古くて新しい問題であって以て他山の石とするに足るし、アメリカ人の考え方がうかがえるので敢て参考に供する、何分５０年前の綱領であり表現が古く廻りくどいので意訳した点もある。

博物館職員倫理綱領（抄）

Museum News
June 1974より

編集者記

博物館は最も広い意味で人類と民族の将来の幸福のため、収蔵物件を安心して置ける研究機関であ

る。博物館の価値は人々の情緒的、精神的生活に貢献するサービスと直接約合のとれているところにある。

博物館職員の生活はそれが作業員であっても、責任ある理事であっても、本質的にサービスの一つであることに変りはなく、職員の行動は3つの倫理基準によるものである。

1. 職員の仕事即大義名分への献身ということ。
2. 同僚の非利己的動機を信頼すること。
3. 職員の思想と行動を抑制する動機として、高い正義観に基く名誉をもつこと。

〔博物館ー大衆関係〕

親切、丁寧

博物館職員は入館者に対し常に親切丁寧であるべきであり、時として大いに個人的には不利不便を招く場合においても慎重であるべきである。われわれはある意味で賓客（ゲスト）に対する主人役（ホスト）と思えばよい。

サービス

博物館職員は常に大衆に最善のサービスを提供すべきである。こうすることで職員はそれぞれの博物館のよって立つ“理想と目的”に充分貢献することができる。なおこのサービスは直接間接人々に接触することにより遂行されるものである。

商取引

博物館の維持管理には、講演家、建築家、弁護士、外科医等の個人を含めて多種多様な人々との接触がある。

博物館職員は管理職、一般職員たるとを問わず、商取引の誘因となる関係業者により提供される手数料、贈物チップを受けてはならない。大量取引に許容される或いは請求書に対する早期支払いによる慣習的割引は博物館自体に関する限り、この限りではない。

営業独立

博物館は特定個人ないし業者と取引関係を結ぶことは避くべきであり、むしろ商品の質、サービスの迅速さ、価格の公正に基き取引をなすべきである。

博物館は販売に提供されたる物件を注意深く吟味し、暴力行為による物件の購入は拒絶すべきである。

博物館はノンプロの講演家にサービスを依頼し或いは受入れるのを自由であると考えているようであるが、その人の生計が部分的或いは全部彼の講演やサービスから得られていようがいまいが適当な報酬を支払うべきである。

大衆

大衆は自由に与えられるサービスに対し要求するとき、過大になりがちであるが、サービスのために不必要な時間をかけさせることは、博物館のなしうるすべてのサービスの量と質を低下させるという事実に深く関心を払うべきである。

〔博物館相互関係〕

博物館相互関係の主たるものは、会長、理事団、館長の相互関係である。

職　員

博物館は親密度の高い他館の職員に対し、館長の承認をえずに地位を濫りに与えてはいけない。

A館の職員がB館の地位に対し応募申込する際はA館はその職員が常傭であっても、B館と協議する何らの義務はなく、あくまでもその職員の責任において処理すべきである。

博物館はより大きい責任をとるにふさわしい資格ある職員の昇進については、職員の幸福と博物館の大義名分という見地から認めるべきであって、当該館においてその機会を与えることが出来なければ公開されているよりよき地位への応募申込をなすようその職員を励ますべきである。

コレクションと取得

博物館は寄贈品（物件）の受入、コレクション購入につき他館が商議中のものに関しては、他館が一部又は全部につきその商議の完結するまでは誓って口出し申込をしてはならない。

２つ又はその以上の博物館がコレクションの購入につき一部又は全部に関心を有する際は最高の倫理基準、即ち関係館は相互に通信、会議或いはその他の方法により協力するべきである。

探険（発掘）

２つ又はそれ以上の博物館が同物、同件に対し同一地方に探険を実施することは努力を二重に重ね不必要な資金を費消する。最高に望ましいのは関係館がフィールド・ワークの面で親密な提携体勢手続きを設定することである。そのためには１つの探険隊にしぼり、これに数個の研究機関からの財政援助を受け、コレクションづくりについてはすべての館が協力すればより少ない資金を以て見る結果となる。

博物館にして関係館に集められた標本類の全貌を報告しないのは倫理に反する。物件は科学、美術、歴史、人類いずれの分野にても最大価値ある場所（館）に置かるべきものであるからである。

コレクションと交換

博物館は交換、販売、その他の方法により協力すべきであって、このようにして珍奇な物件や標本が研究できるようになり、又これと関連物件は関連度の高い館に置くべきである。

努力の重複

２つ又はそれ以上の博物館は同一コミュニティで同一サービスを実施する試みをなすべきでない。仕事をよく整備して他館に対し、その努力を二重に重ねるようなことをしてはいけない。又他館のプランを知りながら実施するなど以ての外で不名誉極まりないものである。最も望ましい行動は他館の仕事に対する同情ある理解と心からなる協力である。

情　報

博物館は常に意欲的かつ丁寧に、規約、規則の許ず限り情報は提供すべきである。財政方法、研究に関するものは他館の要請により提供すべきであり、その情報は自館の必要にのみ利用すべきで、その館の許可なしで公表ないし金銭取引の具に供するという利用方法は不名誉極まりないものである。

博物館相互の自由なアイデアと事実の交換は人類への最善のサービスという意味で高く評価すべきものである。

〔館長→理事団関係〕

（私活）財団理事機関と事務局の関係と考えればよいが地方公共団体では事情が違う。

館長は館内の資産、そのサービスの性格、その財政支出につき理事国に対し責任をもつものである。

存に理事団は博物館のシゴトの実施に当り広範囲に自由裁量権を与えられるべきである。従って館長は館の運営状態につき理事団に厳格なる会計報告を時々すべきであり、理事団の承認なく大量の支出をなすべきでなく、政策方針の変更はすべて理事団の許可を受くべきである。理事団は館長と共に責任を分担すべきものであり、博物館の諸事情に精進し熱心にその重責を充分にになうべきものである。

権　威

大いなる責任は大いなる権威を生む。館長はその知識、正義、同情の3つでその権威を緩和しなければ必ず自己の責任に帰属する権威の濫用の危険が目前にあるものである。一方理事団は館長の判断を信頼すべくその勧告は同情的考慮を払うべきであり、館長は理事団の信頼に答える如く行動すべきである。

無思慮なる理事は無意識に学芸員その他職員のカジュアル(普段の)な会話のなかで博物館のモラール(志気)を破壊するかも知れないが理事は職員に政治的発言は差控るべきが当然の義務である。

忠　誠

館長は理事団に対し忠誠を守るべきであり理事団も館長に対しまた然りである。また館長の在職期間の選挙形式のほかは、館長と理事団の間に文書契約の必要はない。不満ならば相応の通告期間後辞任させればよい。

誠　実

館長は理事団と共に絶対に誠実であるべきである。過大な夢を描くこと、一点を強調の余り重要事項を過少評価することは正当でない。

手　腕

正しい時に正しい方法で正しいことを言うのはしばしば企画の成否にかかわる。率直は矛盾するものではない。館長が理事団の各成員を知れば知るほど博物館の諸事情に活意をむけさせることができるものである。

公平均等

館長がシゴトでしばしば会長、理事団の幹事に相談することは止むを得ないが特定個人ないし数名に限り好意を示すことで他人を無視することは摩擦を生ずる恐れがある。

〔館長一職員関係〕

義　務

職員が愉快な健康な条件の下に博物館の維持管理のため懸命に働く、研修、経験、義務遂行に基く適正な給与を受ける。常勤非常勤たるとを問わずシゴトに対する適当なクレジットを与える。又組織内昇進に対し、或いは他館へのサービスに対しあらゆる機会を与える等の面倒を見るのは館長の義務である。

公　平

あらゆる組織体には確実な規則が絶対に必要である。これらの組織設定に関しては館長は組織のため、職員の幸福のためを十分考慮すべきであり、困難なることは自分が当るよう努めるべきである。

同　情

館長は職員のシゴトに同情ある関心を示すべきである。感情を離れ、各人各様の人格に対する同情

的理解をもつよう努力すべきである。

〔職員ー館長関係〕

忠　誠

職員は館長と館と館のサービスの３者に忠誠たるべきである。個人的批評は直ち不忠誠となり、而して職員が館との関係を切ることは職員が館又は対し不忠誠であるよりもよいことである。

責　任

職員は自己の従事するシゴトに対し責任をもつべきである。義務の第一は保管中のコレクションを注意深く面倒を見ることと、博物館と大衆に対し自己の義務遂行を阻害する自己自身の利害に関わらないことである。慣習性、怠慢、ブラブラ歩き、自己のための博物館勤務時間の使用に対する無責任がその形であるが、館長はこれを暗々裡に承認してはいけない。

権威に対する尊敬

館長の権威は最高であり部下職員の判断、忠告を求められるから全面的に実現可能な解答を準備すべきものである。職員は才能の限りをつくし、館長プランを実施すべきである。自身当を得ていないと思われる場合でもそうすべきで、館長と幹部に対するその職員の態度は権威に対する尊敬の１つである。

〔職員相互関係〕

礼儀（反誼）

博物館職員間には相互の権利につき善意と友誼が存在すべきである。

寛　容

多数職員を擁する職場は各自が人格、識見、感情、仕事に尊敬をもつべきである。嫉妬に満ちた行為、ゴシップせんさく好き、皮肉、すぎた冗談、無思慮は常に不寛容で利己的で残酷でさえある。

学芸員倫理綱領の提案

Museum News
May 1974 より

著者のAlan D. UllbergはSmithsonion協会の一般相談部次長である。標題のうち“出版と印税”“講演謝礼”の２点のみを下記に翻訳した。

出版と印税

博物館職員の著作による印税、奨励金等については別に基準を必要とする問題である。著作と出版は大いに奨励されるべきで、生産された多くの仕事は博物館の信用を高めるのに役立っている。しかし自己の利益のために博物館の職員、施設、名声と自己の地位を利用する傾向の多いのが見受けられる。例えば学芸員は公開される展示品の目録づくりを命令され、それが博物館或いは出版業者（或いは両者共同で）発売され、当の学芸員はこのすべての仕事を勤務中に行なった際には、彼に印税の分

け前を要求する権利ありとは信じられない。しかし職員の著作活動を奨励する試みとして印税を著者と博物館で分配するという案もあるが、著者が常勤たる所では印税分配支給の合理性を見出すのはむつかしい。すべての場合、印税問題は職員か執筆活動の承認を得ているその時点で解決さるべきものである。学芸員自身の時間と創造的思考の実質的寄与による資料が出版業者により刊行される場合(博物館と出版業者の共同出版である場合も含む。)はその学芸員が印税の若干或いは全部を保有することは適当と考える。この仕事が命令により与えられたものであっても、その本を書く技術を得、その資料に精進しているならばそれもまたよろしいと考える。(かかる状況下では改訂作業はプライベイトに実施されているのが実状である。)

かような問題の生ずるところは学芸員との約束で若干の印税は奨励するべきものである。かような仕事は知識の増加を期待でき、小さな点火剤(若干の印税)は価値ある出版物を産み出す刺戟となるであろう。

知識が学芸員の著作により進歩しないというケースもある。学芸員が研究機関の許可なしでストレートに商業的投機に従事するような場合である。教科書を書くともうかるというので商業的にもうかる教科書を書くのに、研究機関の資料を引出す権利ありとは考えられない。かような仕事は学芸員自身の時間で研究機関を含まずに実行されるのがよろしい。

(講演謝礼)

謝礼はしばしば職員の外部講義、授業に学芸員に提供される。講義、授業がたとえ勤務時間中に行なわれたとしても学芸員にその費用弁償の意味でその謝金を保有することを許可することで奨励すべきである。学芸員にその時間を"休暇"扱いとし事前に承認して、相当の準備期間を与えるべきである。一般的にこの活動は博物館として一つの信用となるのであるが、そうでないという館長の意見なれば事前承認の規則を楯にとって禁止することも出来る。館長が職員の外部活動を欲しなくとも、不適当でないと感じたときは職員は自己の時間で博物館の背景なしで実行すればよろしい。

或る場合は謝礼を博物館自体で別勘定として計上し、学芸員所属の部課に積立て特別企画に引出すとするのが適当なときもあろう。

博物館職員は公僕と考えられる傾向が強いから、我々は良心が唯一の基準という領域に一定の指標を必要として準備せねばならない時代が来たようである。

<訳　市立名古屋科学館企画調査委員>

台湾の博物館を見て来て

金子　功

◎台湾の博物館の現況

台湾の博物館といえば、まず第一に台北北こうにある故宮博物院でしょう。将介石が大陸から移ってきた時に、北京の歴代中国王朝の収集した品数十万点を持ってきて、収蔵、展示している所で、余りにも有名ですが、このほかにもいわゆる博物館といえるような施設はたくさんあります。それぞれ専門分野ごとに主なものを別記してみますと、

美術館	故宮博物院
総合博物館	省立博物館
科学博物館	国立科学館

	台北市立天文台
自然史博物館	阿里山高山博物館
歴史博物館	国立歴史博物館
	国軍歴史文物館
記念館	国府記念館
民俗館	台南市民俗文物館
	鹿港民俗文物館
水族館	澄清湖水族館
動物園	台北市立丸山動物園
植物園	南海植物園
	墾丁公園

等というのがあり、一応あらゆる分野のものがあり、それぞれ活発に活動している様です。ただ、行政上の位置づけというか、国の制度の上からはどうなっているかといえば、これがまことにはっきりしていません。行政といえば、台湾という所はまことにおかしな形を作っております。国民党の統卒する中華民国政府は、彼等に言わせると、今は時節が悪く台湾という小さい島に閉じ込められているが、いずれ機会を求めて大陸に帰るのだと言っています。従って台北にある中央政府も、台北はあくまで臨時首都だと称しているわけですから、中央政府といっても実はその行政は台湾省しかないのですが、単なる台湾の政府と言われないために、中央政府の下に台湾省政府があって、実際の行政は省政府が行なっています。もっとも中央政府にしてみれば、その下につくのは台湾省政府一つでけというのもいささか気がひけるのか、台北市を特別市として、中央政府行政院直轄にしております。つまり、台北市は台湾省と同格ということになります。こんなことをしてみても、台北市の中に省政府と中央政府とあったのでは二重行政の観があるので、省政府は台中市の南に新しく政治都市中興新村を作って省政府をそこに移転させています。

こんな行政形態を頭に入れた上で、台湾の博物館を語ってみたいと思います。台湾の博物館は中央政府のもの、つまり国立と、省政府のもの、つまり省立と、ほかに県、市立や、民間設立のものまでいろいろありますが、一応教育的な施設であるというので、国立のものは教育部（文部省）、省立のものは教育庁のそれぞれ社会教育の部門に属しています。とは言っても日本の様に、博物館法といった様な法律もなく、学芸員の様な博物館専門職員に関する資格もありません。数ある博物館の人達の中には、博物館としての体系づけた研究をしようという動きもあって、今から１５年程前、台湾博物館協会というようなものが、国立科学教育館の戴文郎氏等の力で発足しましたが、何と言っても一般行政職の人達でたまたま博物館長になっているというのでは、転任もあるし、現国立歴史博物館長等は、この学会発足当時は中整所で張り切っておられたらしいですが、館長となると多忙になり、結局今は名前だけで活動は中停止している様です。

それでは、私が見て来ましたいくつかの館について御紹介してみましょう。

◎国立科学教育館

台北市の北の端に近い所に南海学園と呼ばれている公園があります。学園といっても学校という意味ではなくて、学問の公園といった意の所です。国立歴史博物館、同じく科学教育館、図書館、美術館等々、広々とした植物園の様な教育施設が集まっているので学園と名付けられています。

はじめに科学館を訪ねてみました。１９５８年に建設されたこの科学館の建物は、北京にある天壇の中の祈年殿を模して作ったといわれる６階建の鉄骨ブロック積の特長ある建物です。

建物全体が円形の建物ですから、部屋はいずれも扇形になっていて、大変使い難い様な感じを受けました。館長さんの話によると、現在台湾大学の教授をしている人の設計だそうですが、世界でも代表的な機能の悪い建物の標本だと笑っておられたが、外観を主として作り、その中に機能をはめ込も

うとした設計の失敗かもしれません。

もっとも館長さんにいわせると、こんな建物の構造上の問題よりもっと本質的な問題に不満がある様です。

これは日本によくある話ですが、時の教育部長が自分の在任中に何か目立つ施設を残しておきたいと考えて、この建物を作ったのだそうだが、設立の目的も、運営方針もないまま建物だけ作り、何とか運営してみろという次第らしい。こんな具合だから、教育部長が変るたびに方針も変って、なかなかやりにくいらしい。

その上日本とちがって、国立の施設の方が省立の施設より少ないらしい点もある。前にも述べたように、中央政府（国）と省政府という二重構造の行政といっても、実際の行政特に内政の実権は省政府がにぎっているので中央政府は外交と軍事を除けば実際の仕事はないといってよい。従って内政の予算は主として省政府がにぎっているので、当然国の施設の方が貧弱になるかもしれません。

専門職員がいないので、むずかしい問題は館外の適当な人の指導を受ける様になっているようで、たとえば簡単なプラネタリウムもありますが、これらも中央気象局の天文の課長さんが、毎週一回来ては解説しているのだそうです。

このほか運営委員会のようなものもできてはいるが、委員はいわゆる社会的有名人を選んでいるので、実際は集まる機会が少なく集まっても代理が多い、等これらの問題はすべて日本の博物館のどこででも耳にする共通の問題点のようです。こんな問題はたくさんあっても、それらの点を解決して熱心に活動している様子を、館長さんの案内で見せて頂きました。

この館は通常どこにもあるような理工学を中心とした科学展示を行っていますが、なかなか予算の関係もあって新しい展示物が入らないので、企業の協力等で展示物を作っているがそれもなかなかむずかしいので、ちょうど私の行った時は台湾の産業の新しい姿を見せるという形で、全島の企業の出品で約一ケ月の期間で特別展を開いておりました。こんな特別展は日本の科学館でも行っていますがここの様に全館使ってというのは珍らしいことでしょう。

こんな訳で主要展示を見ることができなかったのですが、展示室以外の施設を拝見してみました。

○電子計算機室

ＦＡＣＭの中型が１組おいてあって、高校生、大学生を対称にコンピューターの教育を行いながら、教育部（文部省）の文書処理を行っているようでした。現在台湾にコンピューターは３０位入っているそうです。

○実験室

小中学校に開放される実験室で、生物の解剖等を実習させるようになっていて、私が行った時にはニワトリが職員の手によって用意されていました。学校の設備のない所では、先生が引率して来て、学校の先生が自分で教える様になっていて、館では助手的に材料をそろえたり準備をするだけらしい。材料費もたとえばニワトリ一羽４００円位のものを６名一グループに使わせて、１人１円つまり６円の材料費だけを徴収していると言っていました。もちろんここは生物だけでなく、化学、物理等も実験でできる様になっています。

○プラネタリウム

６m位のドームの中に、アメリカスピッツの初期のＡ－１型があって、前に述べたように中央気象局の方から週１回来て解説しています。

○ホール

１００名位の固定席に扇形の部屋があり、１６ミリの映画ができる様になっています。

○工作室

実験部の人達の展示品の保守の部屋になっていて、何人かの人達が作業をしていました。

ほかに小図書室、倉庫等があって、博物館としての機能は整っていますが、はじめに述べたように専門職員がいないことと、研究室のないことを残念がっておられました。

ところでこの科学館の利用状況ですが、入場料は一般２０円、学生１０円の整理費だけをとっているようです。全額で４０万円、人数にして１５万人位が利用しているようです。この程度の規模のものとしてはよく利用されているといってよいでしょう。

◎省立博物館

台北市のほぼ中央部に、新公園という公園があります。総統府ならの中央官庁街、大きな会社が並んでいる重慶南路、南京街というショッピングの街が近くにあり、台北駅も歩いて１５分位のこの公園は、東京でいえば日比谷公園とでもいう所でしようか。日本時代からの公園で、その中に省立博物館があります。ギリシア風の中央に丸屋根をもった博物館らしい建物です。

３階建のこの建物は入口が階段を上った２階になっており、入った所の左手は事務室、右手は特別展会場、植、鉱物等自然史の展示室となっており、１階は収蔵庫として使用されています。つまり内容的には総合博物館というわけです。

日本時代に作られたこの博物館は建物も立派なものですし、資料も永年にわたって集めたものがたくさんありましたが、戦争中に空襲を心配して一部資料を田舎に移したのですが、皮肉なことに台北市は無事だったのに移した先で空襲に会って、貴重な資料を焼失してしまいました。こんな関係もあって、立派な建物の割には内容が淋しい感じです。

２階の高砂族関係の展示室にはたくさんの民俗資料や、模型を使って彼らの生活を上手に説明しています。高砂族といわれる山地民族は、今はその数も少なくなっていくばかりでなく、生活様式も普通の人達と変わらなくなっていくので、今のうちに高砂関係の生活資料を集めておかなければという声は次第に高まってきていますが、今のところ高砂の暮しを見せてくれる博物館はここだけというのは淋しいことです。

２階西側の自然史関係の展示室は、日本のどこでも見られる平凡な自然史博物館でとりたてて珍しいものもありません。

１階西側の特別展会場では、大学生の設計した新しい生活環境作りのモデル展が開かれていました。工業デザインの展示会ですから、むしろ科学教育館で開くことの方が適当と思いますが、そんなことより、その展示が前に述べた科学館の展示と同じように、大変立派なことに関心します。日本の展示のように、むやみに新材料を追求してのいわゆる新しい展示ではなく、平凡な材料の平凡な展示ですが、そのデザインと仕事（細工）の美事さは明るくわかりやすい展示として感心させられます。特に日本のように展示屋さんはなく、看板屋さんの手になるものですが、ひとりよがりのないのは好感がもてます。新しい材料はあまり使わないが、デザイン等は大変みごとで立派なものを構成しています。

博物館は規模の割に予算も豊富なようで、専門職員もいるし研究室もあり、人間的にみても博物館としての機能の備わった所でしよう。

◎故宮博物院

◦その歴史

台湾の博物館といえば、台北北部にある故宮博物院がまず第一にあげられます。

戦争中北京に数年いた関係で、天安門の中大理石の石畳に囲まれた紫禁城の故宮博物院によく通ったものでした。ただ私の通った昭和１６年頃の北京故宮博物院の重要なものはすでに運び出されて二流品が展示されていたわけですが、今台北で見る数々の美術品は、永い間にわたって流浪の旅を続けて、やっと今の所に落着いたという感じです。

北京の博物館ができたのは、清朝が崩れて中華民国が生まれて１４年目、昭和のはじめですが、革命の後片づけも終り、内政が軌道に乗った時に、歴代王朝の収集美術品を中心に博物館を作りました。はじめは無統制な展示であったが、数年たった明国１７年（昭和６年）頃からやっと分類、整理され博物館らしくなったが、間もなく満州事変がはじまりその拡大とともに北京、天津付近まで戦争にま

き込まれそうになった。これがこの博物館の資料の流浪のはじまりである。１９３２年秋から梱包開始、１９３３年冬から春にかけて１3,４９１箱の荷物を一応上海に送り、１９３６年南京の建物が完成と同時に故宮博物院南京分院として発足。ところが、１９３７年日華事変がはじまると、南京も戦場となるので、再びあるものは陸路で、あるものは揚子江を船で漢江、重慶と最後には四川省の奥地まで一万箱からの荷物を運び出しました。こうして太平洋戦争中は四川省で眠っていたこれ等の資料も、戦争が終って北京に帰ったのもつかの間、内戦はげしくなり中華民国が台湾へ移ることに決定と共に再び梱包されて台湾中部の台中市に運ばれました。しかし今度は３０００箱位しか運べなかったようです。

台中ではしばらく製糖会社の倉庫に納まっていましたが、１９５０年台中市こう外に新収蔵庫が完成して一応落着きました。しかし本当に安住の地に納まったのは、１９６５年現在の台北市北部土林という所に、３億２千万円と５年の年月をかけて新しい建物が完成した時です。しかしこれも中国問題の進退いかんでは、再び大陸への旅に出ることがくるかもしれない。

以上が台北故宮博物院の歴史の一端であるが、現況を簡単に紹介いたしましょう。

◦場所と建物

台北から温泉で名高い北投へ行く途中分れた所に土林という所があります。近くに将介石の家があるほどの静かな谷あいの街というより村で、近くに園芸試験場等もあります。この谷間は、台北市の北に３００ｍ位の山にへだたれていますが、広々とした敷地に中国風のみごとな建物ができています。バスの終点の広場の向うに石造りの裨楼の様な門があり、そこから長い石畳を２００ｍほど進むと二段に曲って登る石段の上の広場に出ます。そしてその正面に間口が２００ｍ位、中央に一段高い建物、左右に小さい建物を従えた３階建（１部４階）の広壮な中国風宮殿造りの建物が、山を背にして建っています。２、３階が展示室で、１階は事務室、研究室等になっています。

◦展示室

資料は少くなったとはいえ２４万点といわれて、そのうち８千点が展示されています。年４回展示替をしても１０数年かかるという大変な量です。銅器、玉器、文具、漆器、絵画、図書、文書等１３に分類され、部屋ごとに分けて展示してあります。５千年前位から伝っている数々の歴史的、美術的資料は、一点一点が貴重なものですが、あまりにも数が多いのでその重要さもあまり感じない位です。展示ケースはグレイの目立たない色で、床は木タイルのモザイク、冷房も完全で、所々にやわらかい椅子がおいてあり、落着いた気分で見学できます。

展示物はすべてケースに納めてある器物、絵画等ですが、一つだけ河南省で発掘された殷氏の墓の大きいものが展示してあるのが目につきます。

◦案　内

広い館内のどこに何があるかは入口のホールに配置図があるだけで、ガイドブック等は売っていないので、一人で能率的に見るには不自由です。ただ、１００頁の本文と２００位の写真の入った図録はブックコーナーで売っています。各部屋には日本語、英語、中国語の解説の印刷してあるものが用意されているので、それを見ながらまわればよくわかるようになっています。そのほか毎日午後５時になると日本語を使っての案内があるので、それを利用すれば約１時間で能率的に見ることができます。ただこれは館の女子職員が案内してくれるのですが、人によって得意があるらしく、私が聞いた人は陶器は実にくわしく説明してくれたが、ほかはあまりよい説明は聞かれませんでした。

ここは台湾での観光コースの中の目玉とあって、連日たくさんの観光客、それも日本人の団体が次から次へとガイドに連れられて入っています。ガイドの中にはなかなか上手な展示物の説明をする人がいますので、それを聞かせてもらうのも一つの手でしょう。

館内は撮影禁止で、カメラは入口であずける様になっています。そのかわり、館内何箇所かにブックコーナーがあって、図録、復製品、スライド等を販売しています。

まず台湾最高というより東洋で№１の博物館といえましょう。書き忘れましたが、この博物館にあ

る２４万点の資料は、博物館のうしろの山の中に造られた地下収蔵庫に納められているそうです。山の中に眠っている数多い文化財が展示室に顔を出す折をみて、再び訪ねてみたい気持を残して台北市内に帰りました。

以上で台湾の美術、科学、歴史、総合といった４つの代表的博物館を紹介いたしましたが、台湾の博物館を見ると、一つのかたよった流れが目につきます。それは、中央政府は中国大陸に関心を示しても、台湾固有の文化にはあまり注目していないように思われます。国立の施設としては歴史博物館にせよ、故宮博物院にせよ、内容は台湾文化でなく、５千年の中国文化の博物館です。台湾固有の文化としてはたいしたことはないにしても、前にも述べた高砂関係の民俗資料や生活文化等はもっと積極的に残すべきでしょうし、比較的開発がおくれている３千m級の山が連なる中部山岳地帯には、数々の珍しい動植物があるが、高砂族の生活のための猟と、その獲物を土産物として売っている観光業者との力で、次第に絶滅が近づいているものもあることを考えれば、台湾という土地の人物、自然を集め、研究する博物館がもっとあってもよいでしょう。

台北附近の博物館の紹介だけで紙数が終りましたが、台中近くの鹿港民俗文物館、台南の市立民俗文物館等を立派なものも他に多数ありますので又の機会に御紹介致しましょう。

<御園天文科学センター所長>

建設すすむ『名古屋市博物館』（仮称）

－その経過と施設の内容－

新海明敏

1. 経　過

名古屋市では、人口２００万人突破記念事業の一環として昭和５２年秋の開館を目指して博物館を建設中であります。

この博物館は、人文系に属する歴史博物館です。歴史博物館としたのは愛知県内の博物館の設置の状況や市内に散在している歴史・民俗・考古等の資料の保存と活用という観点から各方面の専門家や学識経験者の意見をもとにして決定されました。もともと博物館の計画についてはすでに昭和４０年「名古屋市文化施設調査報告書」で名古屋が文化都市としての性格を強めるためにはどのような施設を計画したらいいのかという報告の中で人文系博物館の必要が提言されその建設が望まれていましたし、各種の集会や懇談会の席上でも話題となり、いつごろどこにつくるのかということが市民の関心事でもありました。

昭和４２年にいたって、市民会館・博物館・国際展示場の３つの施設の建設と堀川の河川浄化が人口２００万人突破記念事業にとりあげられ、４月から調査がスタートいたしました。

各種の調査を２ケ年にわたって行なったことをふまえ、博物館については昭和４４・４５・４６の３ケ年間さらに基本的な考え方について、文化財関係者、学識経験者、博物館関係者等から意見を聴取し、また全国主要博物館の運営状況について調査を行ない基礎資料の収集につとめました。

昭和４７年３月、これまでの調査の結果や各界各層の意見をもとに建設場所を瑞穂区瑞穂通り１、旧市立大学病院跡地と決定いたしました。次いで博物館の計画を具体化するためその年の６月、市長の諮問機関として名古屋市博物館建設協議会（以下「協議会」という）を設置いたしました。協議会では専門委員を設置し１０月にいたって博物館の基本理念・資料収集の方針・展示計画等を骨子とする「名古屋市博物館基本構想」を市長に答申いたしました。博物館の建設準備は以後この基本構想に

そって具体化をはかっています。建物の検討は、昭和４６年１０月からすすめ最初の段階では、展示部門・学芸部門・収蔵部門・管理部門を含め延面積１０,０００㎡でありましたが、検討の結果、博物館活動を行なうため必要で十分な面積として１５,０００㎡となり、さらに機能的な面を勘案して昭和４７年１０月に開催された第２回協議会に１７,０６４㎡、地上３階地下２階案により諮ったところ、食堂を別棟とすること、地下収蔵庫のみでは資料の保存上好ましくないなどの意見により設計を練りなおし延面積１８,１０７㎡、地上４階地下２階、食堂を別棟とした博物館の設計が完成いたしました。

工事は、昭和４８年１２月に着工され、当初昭和５１年３月の竣工を予定していましたがその後の石油ショックにともなうインフレ傾向と行財政上の理由により昭和５２年４月３０日竣工予定に改め現在に至っています。

2. 施設の内容

建物の外観は日本的な中に現代的感覚をとり入れ疵や縦横の目地にも細かな配慮がほどこされ落ちつきの中に格調の高さが感じられる現代版正倉院と申せましょう。

それでは１階から順を追って各施設を紹介しましょう。

玄関エントランスホールは、十分な広さと天井高をとり、周囲の壁はイタリア産大理石を用いゆったりした落着きのある雰囲気とくつろぎを感じるよう配慮されています。従来こうした施設は、ロビーやエントランスホール等について余り意を用いない傾向にありましたが、ここではエントランスホールの教育機能を重視して、固苦しさを感じさせなくて学習への動機づけを行なうためにはどのようなレイアウトにすべきかについて検討を重ねた上設計を固めました。このホールの右側は部門展示室で常設一般展示を補い内容的に深まりをもった展示を時代別にあるいは分野別に行なうもので面積４６５.０㎡、部門展示室に通ずる入口には学芸相談コーナーを設け気軽に博物館の展示や歴史について相談出来るようにカウンターを設け開かれた博物館の一役を果します。

正面は特別展示室で内外のすぐれた文化財の展覧会を行ったり他の博物館との交換展示などを行なう部屋で面積４９８㎡であります。エントランスホールの左は展示説明室となっています。ここでは小学生や中学生が博物館を利用するとき、博物館についての基礎知識や展示資料について解説を行なう計画となっており、いわゆるオリエンテーションルームであります。部屋の面積は２６４.５㎡、収容人員３５０名であります。設備としてオーバーヘッドプロジェクター、スライド、１６㎜映写機をそなえ多様な教育活動が展開できるようになっておりまた操作は講議や解説をしながら操作できるようにすべてオートメーション化されています。

中２階は館長室などの管理部門と展示コーナーとがあります。

２階へはエントランスホール中央にエスカレーターがあり、また身体障害者にはエレーベーターが別に用意されています。

２階は常設展示室で面積１,７４８㎡、ここに一筆書きによるこの地方の原始時代から現代にいたるまでの歴史が展示されます。動線延長は４７０ｍ、観覧時間９０分という計画であります。

３階はギャラリーでここでは国際的な展覧会を行ったり、美術家・美術団体・一般市民の美術作品等の発表の場で面積１,６１６㎡、展示室は８室からなっています。

４階は研究室・図書室・書庫・文献資料室・保存科学研究室などを内容とする研究部門一年中温度湿度を一定にして博物館資料の永久保存をはかるための恒温恒湿収蔵庫からなっています。なお研究収蔵部門には文献や文化財のみでなく、音声や映像等も保存するためにレコード・テープ室、マイクロフィルム室もあります。これらの資料は博物館の職員のみでなく、広く歴史や民俗や考古学を研究する市民にも開放することを考えています。

つぎに地階について説明いたしましょう。地下１階は舞台・映写室を備え２３０名の収容能力をもつ講堂、収蔵品の主なものを整理保管し自由に観覧することのできる収蔵陳列室、映画・スライド・録音テープなどによって歴史に対する理解を深める視聴覚学習室、研修や学習会などに活用することのできる大会議室のほか地下１階には、博物館資料の搬出入と修理、殺虫滅菌等を行なう部門があり

ます。ランプウエイ、荷捌、検査室、写真室、補修室、燻蒸滅菌室がそれです。このほか２８１㎡の収蔵庫と事務室が配置されています。

最下階の地下２階は、機械室、電気室がありとくに停電時には自家発電に切り替えを行なうためジーゼルエンジンがそなえられ非常用電源としてとともに恒温恒湿収蔵庫の温湿度調整のためにも電気が供給され、博物館資料の保存に万全を期しています。

また収蔵庫がこの階に２室配置されています。収蔵庫については、この館の自慢の一つで、博物館資料の性格に応じて地下２階・１階・地上４階に６室からなる収蔵庫が設けられいずれも二重の断熱材と吟味された内装材が用いられ目の届かないところにも配慮の行きどどいた設計となっており、収蔵部門面積3,０５５㎡、全館面積に対する割合も１７％もあり将来１５万点の博物館資料が収蔵出来来る設計となっています。

つぎに来館者の動線は２階３階へはエスカレーターで、身体障害者のためには別にエレベーターが用意されています。また博物館資料は地下１階の荷捌場から２台のエレベーターで各階へ運ばれ、また特に大きな資料は、リフトにより３階へは搬入出来る設備があります。

火災に対する対策は、最新の火災報告機による早期探知と発生時におけるハロンガス消火、スプリンクラーによる消火の設備をそなえています。

盗難防止対策についても、ＩＴＶ・赤外線レーダー・収蔵庫扉の特殊警報装置など十二分の配慮がされています。

最後に博物館の概要をつぎにお示しして施設の紹介を終ります。

建設場所　名古屋市瑞穂区瑞穂通１－２７
敷地面積　１3,１１2.８０㎡
建築面積　　3,５０8.７４㎡
建築延面積１8,１０７.８９㎡
（食堂棟を含まず）
建築規模及び構造　鉄骨・鉄筋コンクリート
地上４階地下２階
着　　工　昭和４８年１２月
竣工予定　昭和５２年４月
開館予定　昭和５２年１０月
総工事費　４４４0,０００千円
（食堂棟、修景工事費は含まず昭和５１年４月現在）

＜名古屋市教育委員会局付課長＞

※　平面図及び面積表は１６ページ参照

博物館教育の実現のために

－教材の開発について－

広瀬　　鎮

博物館で、本当に勉強しようと思う人たちのために、従来の博物館は、一体どれだけの配慮をしてきたことでしょう。昭和５２年秋に完成する名古屋市博物館では、博物館における教育機能をめぐって、「建設準備ニュース　１９７６・３，№５」で次のように新海明敏先生が述べられています。「博物館活動を通じて市民の文化的教養を高め、地域の歴史と文化への関心を深め、文化財保護思想の

普及をはかる。一市民の皆様と一緒に地域の歴史の学びの場として講座を定期的に開催したり、歴史や文化教材についての疑問に答えるための相談コーナを設けたり解説者を置き展示についての解説を行なうことを考えています。一略」名古屋の博物館は、教育のための施設として、収蔵陳列室、視聴覚学習室、展示説明室、展示室、大会議室、講堂が用意され多様な教育活動が展開できるよう計画されています。この近代的博物館が真に博物館教育を機能させるためにこれ以上に一体何が必要でありましょうか。博物館教育の実現のために、無限に近いエネルギーを私共もかけてみたいものです。

日本モンキーセンターでは、附属博物館での博物館教育を、専門博物館のそれにふさわしい内容とするために、すでに博物館学研究会（セミナー）を毎月実施してまいりましたが、昭和４６年から、科学教育のための教材開発研究にとりくんでみました。今後の日本の博物館が、独自の教育活動を意欲的に進め、組織、人員、費用、教材等多くの面で、博物館教育を生涯教育の一環とし、また、社会教育として国民すべてに行きわたるようにするために、もっとも重要なのは、博物館が研究し、教育活動を充実することでしょう。そこでモンキーセンター内に構成された博物館科学教育のための教材開発の研究作業班のことを紹介してみましょう。

これは、文部省、科学教育、特定研究の助成公募にモンキーセンターが、機関研究として応募して、科学教育のための特定班チームに参加し、文部省からの研究費補助をうけて開始した研究です。現在までの研究経過を研究テーマを追って紹介してみますと、

１９７１年　霊長類の進化と適応を主題とした自然科学教育の基礎研究

１９７３年　小中学校理科教育における生物と環境学習をめぐるニホンザルを利用した理科教材の開発についての研究

１９７４年　初等中等教育における霊長類を中心とした自然保護教育の指導法の開発研究

１９７５年　同　上

１９７６年　同　上

以上の一連の教材開発の背景となっているのは、昭和３２年以後実施してきたモンキーセンター附属博物館部門での自然科学学習や自然教育の成果がありますが、何としても霊長類資料の教材化研究を検討し、学校教育の教育課程への適応を構想している点に特色があります。当初は、学校教育の単元そのものにくみこむ計画もしましたが、その後、サルだけを中心とした教材では直接カリキュラム編成上困難性もありますので一歩すすんだ、霊長類の要求する自然環境をめぐる学習法と、その観察指導過程を地域にあった独自的、個性的、自主的な教材として構成して、学校へ提供したいと考えて、副読本を開発しました。このためには、霊長類学研究、博物館学研究、学校教育に関係した多くの方々との協力討議、調査研究が必要でしたが、大変よい理科教育への手掛りができたと思います。そして、次には、自然教育実践のモデル地域の指定や、その他の補助学習地帯を設定しました。又こうした環境の教材度の測定、教材化の可能性の調査を行ないながら、特に地域における小・中学生の自然教育の自然認識度、環境の歴史過程、自然接触などと自然関心度等の基礎調査を石川県、岐阜県、愛知県各地方における児童生徒を対象として試みました。八つの作業班を編成してそれぞれのフィールドで、自然教育学習の実践を行ないましていよいよ指導書の作成に至っております。現在いかに実物利用の博物館教育が重要であるかを、ますます痛感いたしております。今や、見学者の人々の博物館へのぞむ期待、学習欲もいよいよ高かまりつつあります。そういう時にあたって、博物館が教育のための検討を根本問題から始めていないとすれば、もっとも危険なことです。博物館利用者は、今後ますますふえ、しかも質が向上してまいります。それに答える良質な教育事業が望まれていることも事実です。

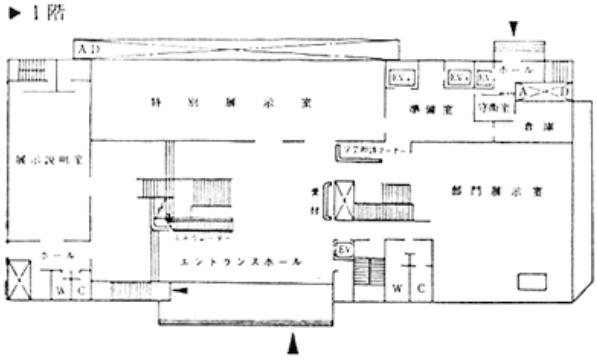
おもしろくて、ためになる、愉快な博物館利用を可能にするためには、博物館教育サービスをめぐるあらゆる角度からの研究こそが、いよいよ望まれてきたものと考えています。ここでは具体的な教材内容とか、指導法開発の実践などにふれることができませんでしたが、美術館、郷土館、民芸館、資料館等すべての博物館でこうした研究が職員によりはじめられ各館が手をたずさえ、協力しあって

上質な博物館教育サービスを提供して行くことからますます多くの見学者、利用者をひきつけて行きたいと思うものです。

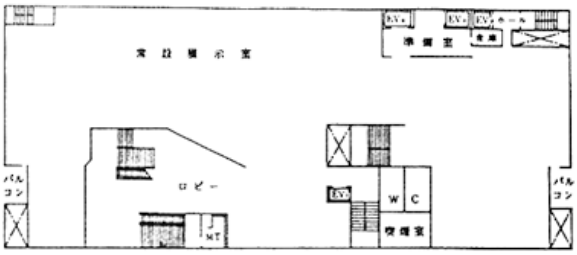
＜日本モンキーセンター附属博物館学芸部長＞

平面図

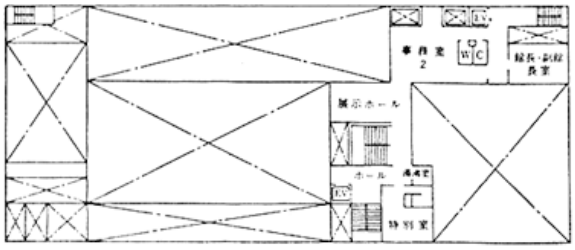
▶1階



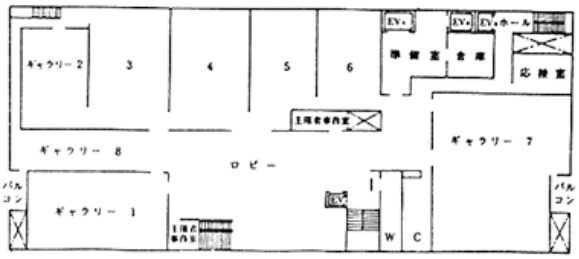
▶2階



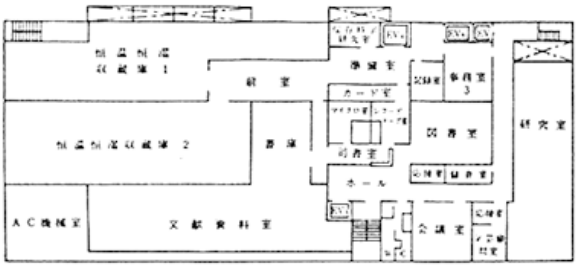
▶中2階



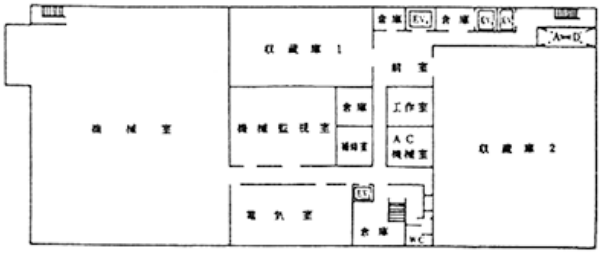
▶3階



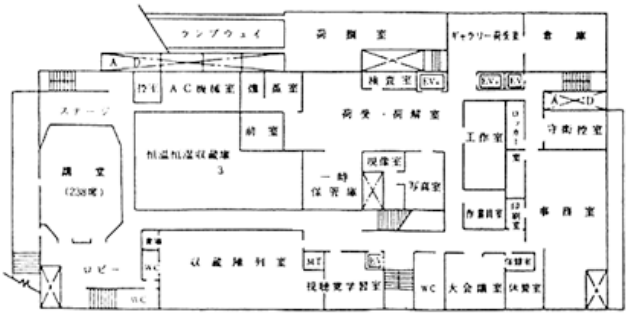
▶4階



▶地下2階



▶地下1階



主な室名と面積表

	室名	面積m²		室名	面積m²		室名	面積m²
展示・教育部門	常設展示室	1,748.0	研究部門	研究室	255.8	管理・一般部門	事務室 1	212.4
				保存科学研究室	31.2		事務室 2	126.5
	特別展示室	498.0		工作室	74.2		事務室 3	52.2
	部門展示室	465.0		図書室	84.0		大会議室	96.5
	展示説明室	264.5		レコード・カード・マイクロ室	85.8		総長・副総長室	49.5
	展示ホール	81.8		印影室・暗室	78.2		休憩保健室	49.5
	展示準備室	121.5		講堂	378.0		特別室	42.0
	収蔵陳列室	205.3		会議室	89.6		監視室	123.2
	視聴覚学習室	89.6	収蔵部門	収蔵庫 1	190.0		設備機械室	1,570.4
ギャラリー		1,616.0		収蔵庫 2	533.0		その他(ランドリー 倉庫・機械室等)	6,933.4
				恒温恒湿収蔵庫1	404.9	計		18,107.9
				恒温恒湿収蔵庫2	409.9	別棟	食堂・その他	270.0
				恒温恒湿収蔵庫3	281.0			
				文献資料室	445.0			
				荷梱・荷受室	422.0			

『愛知の博物館』　No.22

発行日　1976年3月

発行者　愛知県博物館協会
名古屋市東区東桜一丁目12番1号
愛知県文化会館内（TEL〈052〉971－5511）

編集者　愛知県博物館協会事務局

印刷所　ニホン美術印刷株式会社